

# 日本教育方法学会 30周年記念大会プログラム

## 《大会日程》

第一日 10月22日・土	9:30	小シンポジウム①		小シンポジウム②		小シンポジウム③					
	12:00	休憩									
	13:00	自由研究 1 2 3 4 5 6 7									
	14:40										
	15:00										
	17:30	小シンポジウム④		小シンポジウム⑤		小シンポジウム⑥					
	18:00										
	20:00	会員懇親会									

第二日 10月23日・日	9:00	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14
	11:30							
	11:40	総会						
	12:30	休憩						
	13:30	全体会						
	16:30							

1994年10月22日(土)・23日(日)  
於 広島大学教育学部

## 大会参加要領

1. 会場案内：広島大学教育学部は、JR山陽本線西条駅より、バスで約13分（「広大北口」下車：260円）です。西条駅までは、広島駅からJR山陽本線で約35分（快速なら約26分）です。

新幹線をご利用の場合は、東広島駅よりタクシーで約15分（広島大学教育学部玄関まで：約2,200円）です。東広島駅までは、広島駅より新幹線で約13分です。広島空港からおいでの方は、JR山陽本線白市駅までバスで約15分、白市駅から西条駅までJR山陽本線で約9分です。

2. 受付：大会第1日（10月22日）は9:00から、第2日（10月23日）は8:30から、教育学部玄関のホールで行います。

- ・大会参加費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円です（発表要旨集録代を含む）。
- ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度（1994年度）の学会費をすでに納入されている方は、受付時に『教育方法23』をお受け取りください。なお、本年度までの学会費（一般会員5,500円、学生会員4,000円）を未納の方は、併せてお納めください。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ぜひともご参加ください（詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください）。
- ・なお、受付にて「ネームプレート」を用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：第1日（土）は、教育学部前の生協食堂をご利用ください（営業時間は、10:30～13:30です）。

第2日（日）は、生協食堂が閉店いたしますので、受付にて弁当券を販売する予定です。

なお、会場付近には飲食店はほとんどありません。

4. 研究発表：発表会場は、4頁の「講義棟の案内図」等をごらんください。

自由研究発表の発表時間は、以下の通りです。

個人研究：発表20分 質疑10分

共同研究：発表30分 質疑10分（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）

なお、本プログラムに記載されているコーディネーターおよび司会者、提案者の氏名は、五十音順です。

自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。

5. 会場校連絡先：〒724 東広島市鏡山一丁目1番2号

広島大学教育学部 教育方法学研究室

TEL. 0824-24-6744 (直通)

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局（同上）にお願いいたします。

## 大会参加要領

1. 会場案内：広島大学教育学部は、JR山陽本線西条駅より、バスで約13分（「広大北口」下車：260円）です。西条駅までは、広島駅からJR山陽本線で約35分（快速なら約26分）です。

新幹線をご利用の場合は、東広島駅よりタクシーで約15分（広島大学教育学部玄関まで：約2,200円）です。東広島駅までは、広島駅より新幹線で約13分です。広島空港からおいでの方は、JR山陽本線白市駅までバスで約15分、白市駅から西条駅までJR山陽本線で約9分です。

2. 受付：大会第1日（10月22日）は9:00から、第2日（10月23日）は8:30から、教育学部玄関のホールで行います。

- ・大会参加費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円です（発表要旨集録代を含む）。
- ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度（1994年度）の学会費をすでに納入されている方は、受付時に「教育方法23」をお受け取りください。なお、本年度までの学会費（一般会員5,500円、学生会員4,000円）を未納の方は、併せてお納めください。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ぜひともご参加ください（詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください）。
- ・なお、受付にて「ネームプレート」を用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：第1日（土）は、教育学部前の生協食堂をご利用ください（営業時間は、10:30～13:30です）。

第2日（日）は、生協食堂が閉店いたしますので、受付にて弁当券を販売する予定です。

なお、会場付近には飲食店はほとんどありません。

4. 研究発表：発表会場は、4頁の「講義棟の案内図」等をごらんください。

自由研究発表の発表時間は、以下の通りです。

個人研究：発表20分 質疑10分

共同研究：発表30分 質疑10分（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）

なお、本プログラムに記載されているコーディネーターおよび司会者、提案者の氏名は、五十音順です。

自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。

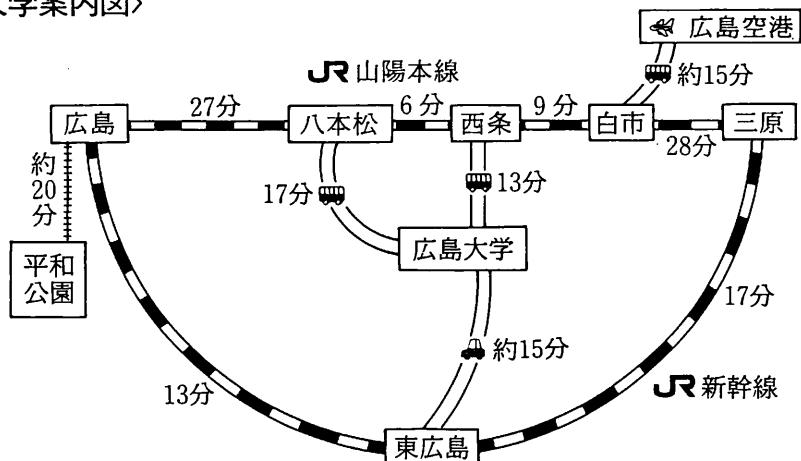
5. 会場校連絡先：〒724 東広島市鏡山一丁目1番2号

広島大学教育学部 教育方法学研究室

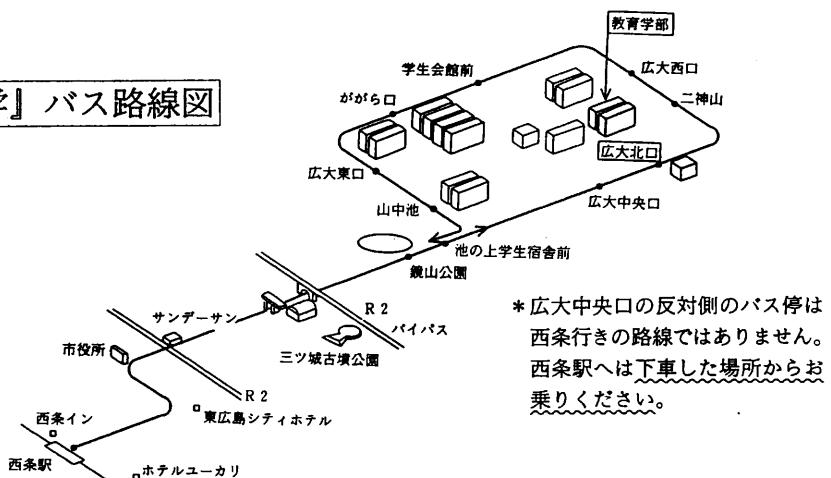
TEL. 0824-24-6744 (直通)

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局（同上）にお願いいたします。

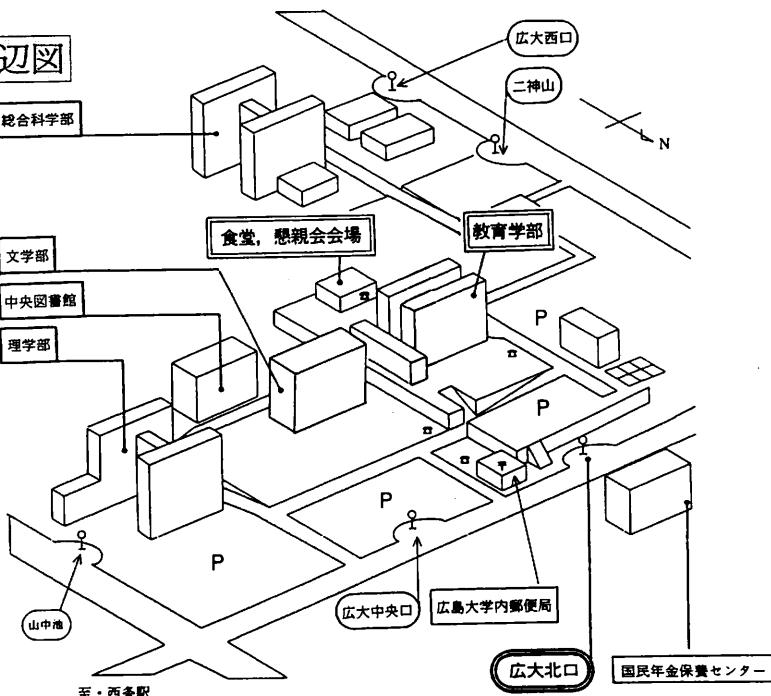
〈広島大学案内図〉



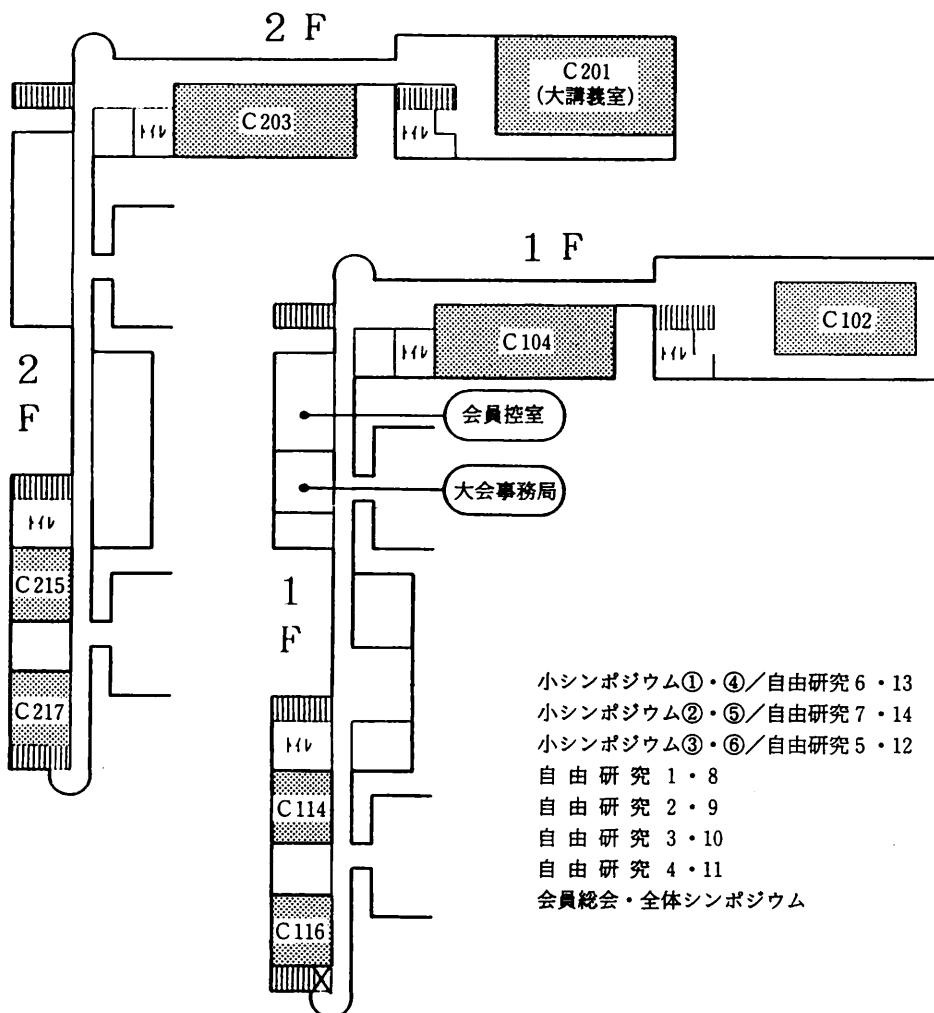
『西条－広島大学』バス路線図



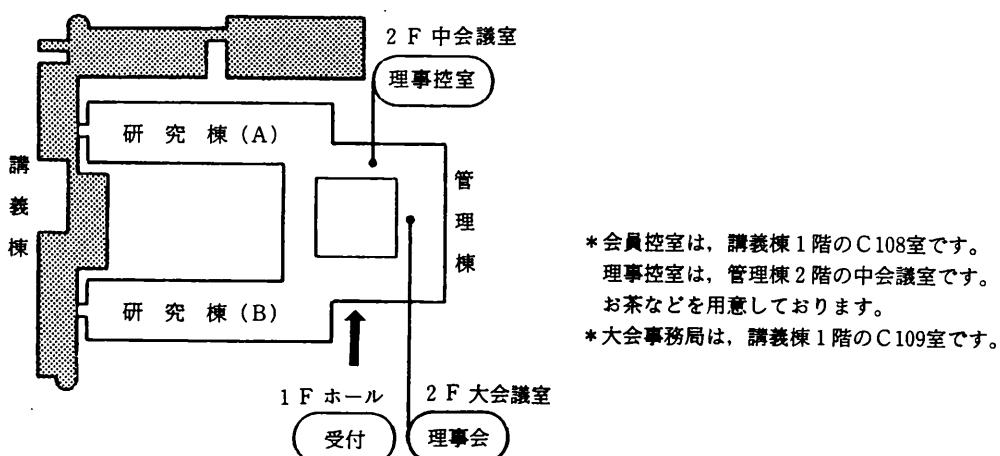
教育学部周辺図



〈講義棟の案内図〉



教育学部平面図



10月22日（土）午前

小シンポジウム①

いま求められる授業研究のあり方  
—戦後授業研究の成果と課題—

(C 104室)

(9:30~12:00)

コーディネーター・司会者

杉山明男(吉備国際大学)

鈴木秀一(札幌学院大学)

提案者

小田切正(元北海道教育大学) 戦後授業研究とその課題をめぐって……………21

土井捷三(神戸大学) いま求められる授業研究のあり方……………22

—教科研究と授業研究のかかわりあい—

山下政俊(島根大学) いま求められる授業研究のあり方……………23

—学習集団づくりの立場から授業研究を検討する—

(コーディネーターによる設定の趣旨)

現在、授業研究は、教育方法研究の重要な一環として多様な理論、研究方法によって行われている。しかし、「新学力観」のもとで、「学び方の学習」重視の指導が文部省、地方教委によってなされている今日、これまでの授業研究の成果はどう発展させられるか、あるいは発展させるべきか。授業研究のあゆみを概観し、その成果と教訓を明らかにし、今日の課題としてのカリキュラム改造・開発につながる授業研究、また、コミュニケーションの創造をめざす授業づくりの道を探求する授業研究のあり方について、授業研究草創期よりその運動に関わった小田切氏、カリキュラム改造と結合して研究されている土井氏、学習集団研究の山下氏の提案をもとに追求したい。

10月22日（土）午前――――――――――

小シンポジウム②

「個性化」重視の状況における集団とは何か  
—集団観と教育実践の課題—

(C 102室)

(9:30~12:00)

コーディネーター・司会者

碓井峯夫(和歌山大学)

折出健二(愛知教育大学)

提案者

浅野 誠(中京大学) 異質協同の集団観……………24

奥平康照(和光大学) 「共通」による共同から異質な他者間の共同へ…25

八木英二(滋賀県立短期大学) 授業における表現の組織化……………26

(コーディネーターによる設定の趣旨)

「個性化」重視の教育が各方面から主張されているが、教育実践にとっては、この「個性化」概念をめぐる論議の主題は、①生活と学習における子どもの共同性(協同性)や集団の本質をどう見るか、②それらとの緊密な関係の中で個人が自立していくことはどういう内実と過程をたどるのか、③子どもにおける共同的関係性や個人の発達課題(あるいは問題)に働きかける教師の指導性とはどのようなものか、である。そこに教育方法学にとっても重要な研究課題がある。そこで、この点に関する戦後の探究成果にもふれながら、個性と集団との真の関係とは何か、これから教育実践において集団をどう見るべきか、を問いたいと考え、本シンポジウムを設定することにした。

10月22日 (土) 午前-

## 小シンポジウム③

# いま、なぜ問題解決学習なのか —戦後学力論の成果と課題—

(C203室)

( 9 :30~12:00)

### コーディネーター・司会者

市 川 博 (横浜国立大学)

駒林邦男（岩手大学地域共同研究センター客員教授）

### 提案者

- |             |                         |    |
|-------------|-------------------------|----|
| 臼井嘉一(福島大学)  | 社会科教育における「問題解決学習」の位置と意義 | 27 |
| 佐藤広和(三重大学)  | 生活表現にねざした個性化教育の立場から     | 28 |
| 清水毅四郎(滋賀大学) | いま、なぜ「問題解決学習」なのか        | 29 |

### (コーディネーターによる設定の趣旨)

文部省から革新的民間教育研究団体に至るまで、教育関係者の多くから否定的に考えられてきた問題解決学習が、いま、再び、評価し直されている。何故か？ これまでの問題解決学習に関するとらえ方をきっちり反省したことであるのか。また、従来の理論・実践と違うものを含んでいるのか。もし、あるとすればそれは何か。いわゆる「新学力観」とはどういうつながりがあるのか。戦後の学力論争や教育実践を踏まえて今後の在り方を検討していくたい。

10月22日（土）午後

自由研究1

(C116室)

司会者 久田敏彦(大阪教育大学)  
藤田輝夫(秋田大学)

13:00	① 「真理の獲得」をめざす相互行為過程に関する考察	30
	米井公介(広島大学大学院)	
13:30	② 戦後ドイツにおける「教育的関係」の変容	31
	—「教育的関係」から「教育的相互作用」へのみちすじで—	
	助川晃洋(筑波大学大学院)	
14:00	③ ドイツ教授学のパラダイム転換	32
	—「授業とコミュニケーションの理論」を追って—	
	阿部好策(新潟大学)	

自由研究2

(C114室)

司会者 平野智美(上智大学)  
渡邊光雄(筑波大学)

13:00	① 授業実践における幻想と事実	33
	森本佐和子(立教大学大学院)	
13:30	② シンボリック相互作用としての教育的行為に関する一考察	34
	田代高章(広島大学大学院)	
14:00	③ 「身体的・言語的」存在としての子ども	35
	—子どもを捉える視座の研究(その4)—	
	角野幸代(神戸女子大学大学院)	

自由研究3

(C217室)

司会者 五十嵐二郎(比治山大学)  
水内宏(千葉大学)

13:00	① 思考力を育てる授業	36
	—授業論についての中日比較その2—	
	宋栄芬(神戸女子大学大学院)	
13:30	② 英国(イングランド・ウェールズ)の ナショナル・カリキュラム(1988)における体育科の目標と評価	37
	木原成一郎(広島大学)	
14:00	③ 子どもによる学習内容の関連化・組織化	38
	田代裕一(西南学院大学)	

# 10月22日（土）午後

## 自由研究4

(C215室)

司会者 川口幸宏(学習院大学)  
澤本和子(山梨大学教育実践研究  
指導センター)

- |       |  |                  |
|-------|--|------------------|
| 13:00 | ① 三上斎太郎の児童方言詩教育論について.....<br>—ことばと文化の観点から— | 39               |
|       |  | 船橋一男(立教大学大学院)    |
| 13:30 | ② 「常用漢字の学習と指導に関する意識調査」から.....              | 40               |
|       |  | 矢部玲子(北海道教育大学研究生) |
| 14:00 | ③ 「疑問法」による読み方の授業の試み.....                   | 41               |
|       |  | 三上勝夫(北海道教育大学札幌校) |

## 自由研究5

(C203室)

司会者 霜田一敏(愛知教育大学)  
田代高英(福岡教育大学)

- |       |  |               |
|-------|--|---------------|
| 13:00 | ① 教育的レトリックへの言語社会学的アプローチ.....<br>光本弥生(広島県立保育専門学校) | 42            |
| 13:30 | ② 遊びの援助論から授業を考える.....<br>—教授論の枠組みの問い合わせ直しの視点として— | 43            |
|       |  | 小川博久(東京学芸大学)  |
| 14:00 | ③ 遊びの拠点形成に物や空間はどうかかわるか.....<br>—幼児の遊び成立の基盤として—   | 44            |
|       |  | ○由田新(東京学芸大学)  |
|       |  | 由田由佳理(富貴島幼稚園) |
|       |  | 小川博久(東京学芸大学)  |

# 10月22日（土） 午後

## 自由研究 6

(C 104室)

司会者 斎藤浩志(龍谷大学)  
中村亨(九州大学)

13:00	① 学習意欲を高める教育方法の研究..... —美術教育を例として—	45
	小島正好(妙義町立妙義中学校)	
13:30	② 教職専門科目「教育方法学」における授業改善の試み.....	46
	徳岡慶一(北海道教育大学函館校)	
14:00	③ チーム・ティーチングの評価研究.....	47
	○加藤幸次(上智大学)	
	高浦勝義(国立教育研究所)	
	石坂和夫(国立教育研究所)	
	浅沼茂(東京学芸大学)	

## 自由研究 7

(C 102室)

司会者 武村重和(広島大学)  
長谷川栄(筑波大学)

13:00	① 創造的問題解決学習としての音楽授業の特質と構造..... —問題の成立および再構成という観点から—	48
	小島律子(大阪教育大学)	
13:30	② 疑問応答授業の教材と指導法.....	49
	安藤輝次(福井大学)	
14:00	③ 理解深化を促す学級・学習共同体の構造と機能..... —追求形態の授業(文学教材)の場合—	50
	○宮坂義彦(聖路加看護大学)	
	○戸田淳子(長野県駒ヶ根市立赤穂東小学校)	

10月22日（土）午後

小シンポジウム④

教育課程の編成原理を問い合わせる  
—遊び、体験、記号、身体知など—

(C104室)

(15:00~17:30)

コーディネーター・司会者

安彦忠彦(名古屋大学)

豊田ひさき(大阪市立大学)

提案者

加藤幸次(上智大学) 精神的活動と肉体的活動を統合する……………51

今野喜清(早稲田大学) 教科内容編成原理を問い合わせる……………52

—“枠組み”論理の解析と課題の提示—

長尾彰夫(大阪教育大学) 教育課程の編成原理を問い合わせる……………53

—遊び、体験、記号、身体知など—

(コーディネーターによる設定の趣旨)

今の学校の教育課程は、どこに、どのような問題があるのか。3人の提案者に、小・中・高のすべてを通じて問題となる点を、それぞれの立場から述べていただく。とくに、教育内容(知識、技能、価値などの文化内容)レベルでは「身体知」や「経験知」、「遊び」や「体験」、「学校知」や「生活知」などについて、教育課程レベルの「生活科」や「総合的な新教科」の試み、「選択制」の拡大などと関係づけながら、鋭角的に問題提起をしていただく予定である。加藤会員には子どもの経験や体験を中心に、長尾会員にはポスト・モダンの観点も踏まえて学校知や記号に隠された問題を中心に、今野会員にはいまの学校を歴史的に位置付けたうえで全体として今後あるべき方向について提言していただく。

10月22日（土）午後

小シンポジウム⑤

学校教育とメディアリテラシー  
—戦後メディア教育の展開—

(C102室)

(15:00~17:30)

コーディネーター・司会者

中野和光(福岡教育大学)  
水越敏行(大阪大学)

提案者

小柳和喜雄(常磐大学)  
鈴木克明(東北学院大学)  
田中博之(大阪教育大学)

学校教育におけるメディアリテラシーの育成……54  
—行為指向的なマルチメディア教材の開発と利用を中心にして—  
学校教育改革運動としてのメディア教育……………55  
—放送教育とコンピュータ教育を例に—  
子供の総合表現とマルチメディアの活用……………56

(コーディネーターによる設定の趣旨)

1. 戦後教育を振りかえると、授業で使うメディアに、またそれらの使い方に、潮流の変化があることは、誰の目にも明らかである。印刷メディア、映像メディア、情報処理メディアなどが、波状をなして教室に押しかけている。しかもそれらが組み合わさったり(メディアミックス)、マルチメディア化する動きもみられる昨今である。  
こうした一連の潮流を振りかえって整理するとともに、それらが授業の設計や展開、個への対応などに、どのような質的变化をよびおこしてきたのかを跡づける必要がある。
2. 子どもが学校と家庭で接するメディアの間に、大きなギャップが出てきた。特に「相互作用性(interactivity)」という視点からみると、同じパソコンをとってみても、学校でのドリル学習やシミュレーション利用と、家庭でのビデオゲームや電話機の多機能利用との間に、巨大なギャップが生じてきている。学校と家庭や社会とで、子どもは毎日頭の切り替えを必要としている。学校に対話的な学習環境を開くには、どこからどう手掛けなければよいのか。
3. 現在の学校で学ぶ子ども、それは確実に来世紀を生き抜くわけだが、そこではどのような新しいリテラシーが必要になるのか。また、文字や映像の読解力だけでは不十分だとすれば、新しくどんな能力が必要となるのか。いわゆる「情報活用能力」のなかで、これから特に肝要だとみられるものは何か。そうした新しいリテラシーを学校はどのように育成していくのか。

10月22日（土） 午後

小シンポジウム⑥

子ども観を問い合わせる

—おとなとの関係性において子どもの可能性をさぐる—

(C203室)

(15:00~17:30)

コーディネーター・司会者

小川博久(東京学芸大学)

湯浅恭正(香川大学)

提案者

上野ひろ美(奈良教育大学)

異文化としての子ども観と相互主体関係.....57

—「教育実践における子ども理解」の視点から—

近藤郁夫(愛知県立大学)

子ども観を問い合わせる.....58

—子どもは子どもであることに価値がある—

高橋勝(横浜国立大学)

子ども観を問い合わせる.....59

—おとなとの関係性において子どもの可能性をさぐる—

(コーディネーターによる設定の趣旨)

「子どもの権利条約」の批准という今日の動向の中で、子ども観の問い合わせが求められている。教授－学習過程などにみられる教師と児童・生徒という関係性は成熟者対未熟者という関係性を前提にしており、その関係性そのものが学校外社会での関係性（マス・メディアとしてのテレビ等のもとでの対等な関係性）とずれを生じている。その結果、学校が管理化せざるを得ないという状況を生んでいる。今、改めて教師対児童・生徒という関係の中で「子どもとは何か」を問うことが教授学的問い合わせとして重要になっている。この問い合わせを通して、教師（大人）と児童・生徒（子ども）の新たな関係性を模索し、学校における新たな教育可能性をさぐってみたい。

## インフォメーション

### 会員懇親会

日 時： 第1日（10月22日・土） 18:00から

会 場： 広島大学 生協北2カフェテリア（教育学部前の生協食堂です。）

会 費： 3,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。広島のお酒を用意してお待ちしております。

### 会員総会

日 時： 第2日（10月23日・日） 11:40～12:30

会 場： C201室（大講義室）

主な議題： 会務報告

1993年度決算

1995年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

### 書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊（第23巻）は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお配りいたします。（大会以降に学会費を納入された方には、隨時お手元に郵送させていただきます。）

# 10月23日（日）午前

## 自由研究8

(C116室)

司会者 高田 喜久司（上越教育大学）  
山田 昇（奈良女子大学）

9:00	① 「小説の教育的効果」の捉え直し·····	61
	—明治期における「転換」と言文一致の関係—	
	朝倉 徹（日本大学大学院）	
9:30	② 中日におけるドルトン・プランの導入と展開·····	62
	劉 力（神戸大学大学院）	
10:00	③ 戦中、戦後の習字教育の事実と問題·····	63
	長岡 文雄（元兵庫教育大学）	
10:30	④ 三好學『授業日誌』に見る明治10年代前半の小学校における教育実践·····	64
	長谷川 栄（筑波大学）	
	○新井 孝喜（茨城大学）	

## 自由研究9

(C114室)

司会者 伊東亮三（鹿児島大学）  
藤原幸男（琉球大学）

9:00	① 行為志向的授業に関する理論的検討·····	65
	—Herbert Gudjons の構想を中心に—	
	中尾洋子（広島大学大学院）	
9:30	② 社会文化的な文脈における認知発達·····	66
	—B.ロゴフ（Rogoff）の認知発達論について—	
	中野真志（大阪市立大学大学院）	
10:00	③ 教育学的概念としての〈制約〉·····	67
	松下佳代（金沢大学非常勤）	
10:30	④ 活動理論と学習の「内化モデル」批判·····	68
	—学習の媒介性をめぐって—	
	山住勝広（大阪教育大学）	
11:00	⑤ 学習の芸術化·····	69
	—学習疎外への“neo-Vygotskian”アプローチ—	
	庄井良信（広島女子大学）	

# 10月23日（日）午前――――――

## 自由研究10

(C 217室)

司会者 庄 司 他人男 (福島大学)  
諸 岡 康哉 (金沢大学)

9:00	① 教育課程編成の一貫性について.....	70 —健康教育を中心として— 佐藤 真 (秋田大学大学院)
9:30	② 疑問の表現に現れた授業の展開について.....	71 —科目別の授業分析— 李 霜華 (九州大学大学院)
10:00	③ 授業における「自己活動」原理の再検討.....	72 —ディースターヴェークにおけるシュライエルマッハ— 尾島 卓 (広島大学大学院)
10:30	④ 教育における「居場所」の思想と構造.....	73 —その問題史的考察— 深澤 悅子 (神戸女子大学大学院)
11:00	⑤ 教授学における主体概念批判.....	74 手取 義宏 (大阪市立大学大学院)

## 自由研究11

(C 215室)

司会者 岩垣撮 (千葉大学)  
平光昭久 (帽山女学園大学)

9:00	① 生活的概念・理論と学習とのかかわりに関する発達的研究及びそれに基づく 教育内容の検討 (2) .....	75 —小学5年。てこの働きの学習— 関谷 健 (京都大学聴講生)
9:30	② 力学概念形成に関する構成法的研究.....	76 —慣性の法則・理解援助の一方策— 斎藤 裕 (県立新潟女子短期大学)
10:00	③ 算数の学力格差克服のための一試論.....	77 —ブルーナーの認知能力発達論を手がかりとして— 植村繁芳 (信濃教育会教育研究所)
10:30	④ 数学学習における視覚的思考の意義.....	78 赤城匡一 (日本大学大学院) ○小笠原喜康 (日本大学) ○佐藤善一 (女子美術大学)

# 10月23日（日）午前

## 自由研究12

(C 203室)

司会者 藤井敏彦(広島大学)  
藤岡信勝(東京大学)

9:00	① フレーベルの「身体性」に関する人間学的考察	79
	船越美穂(福岡教育大学)	
9:30	② デューイ幼年期教育方法の再検討	80
	横松友義(宝仙学園短期大学)	
10:00	③ 歴史教育における開かれた価値観形成	81
	—Opposing Viewpoints: American History Series の場合—	
	溝口和宏(広島大学大学院)	
10:30	④ 政治的無関心を克服する観点からの時事問題学習の位置づけ	82
	—政治教育の方法をめぐって—	
	越田年彦(都立大学附属高等学校)	
11:00	⑤ ドイツ旧DDR地域における社会科の教科教授実践の新たな構想と実践	83
	船尾日出志(愛知教育大学)	

## 自由研究13

(C 104室)

司会者 菅井勝雄(大阪大学)  
八田昭平(愛知学院大学)

9:00	① 子どもの性格や行動上の特性による教師との人間関係の考察	84
	—自由記述調査の因子分析—	
	櫛田真澄(茨城大学)	
9:30	② 教材研究・マイクロティーチングを組み込んだ教科教育プログラムの開発	85
	三橋功一(北海道教育大学)	
10:00	③ インクルージョン研究(II)	86
	—ニュージーランドにおける『SES』の役割について—	
	八巻正治(四国学院大学)	
10:30	④ 情報処理教育における方法論(II)	87
	—「操作能力」の養成—内容の選択—	
	○本橋進(東海女子短期大学)	
	○今井昌彦(東海女子短期大学)	

# 10月23日（日）午前――――――

自由研究14

(C 102室)

司会者 磯田一雄(成城大学)  
 笹本正樹(香川大学)

9:00	① 教育実践研究における人間理解の研究 I ..... —授業分析に焦点を当てて— 田上 哲(近畿大学九州短期大学)	88
9:30	② ショット分析に基づく授業の記述方法に関する研究 ..... —同一ポジションにおける複数の撮影者による授業の記録の分析— 平山 勉(秋田大学)	89
10:00	③ 斎藤喜博、その授業理論と実践についての批判的検討 ..... —斎藤喜博研究・その2— 阿部 昇(茗渓学園中・高等学校)	90
10:30	④ 斎藤喜博『わたしの授業』の一つの読み方 ..... —斎藤喜博のカウンセリング・マインド— 若原直樹(北海道教育大学旭川校)	91
11:00	⑤ 斎藤喜博の横口授業「山の子ども」の分析(4) ..... —「出口論争」再考— 井上光洋(東京学芸大学教育工学センター)	92

10月23日（日）午後

全体シンポジウム

戦後教育方法研究と21世紀教育

(C201室)

(13:30~16:30)

司会者

川合 章（埼玉大学名誉教授）

佐藤三郎（大阪経済法科大学）

〔趣旨提案〕

吉本 均（神戸女子大学）

提案者

柴田義松（成蹊大学） 教科内容・教材研究の成果と課題………93

恒吉宏典（広島大学） 教育方法研究の分化と総合……………94

—学会30年の歩みから—

中野光（中央大学） 私の視点と三つの提言……………95

藤田昌士（立教大学） 子どもの権利条約と教育方法学研究……………96

—子どもの学校参加と指導との関係を中心に—

〔設定の趣旨〕

教育研究における教育方法学研究の位置は、たえず教育実践の現実から学び、また諸外国の教育理論をも取り入れながら、教育改革の先端にコミットし続けてきたところにあるといえよう。日本教育方法学会では、創立以来30年にわたって、こうした教育現実への対応と教育改革への提言に関わって課題研究やシンポジウムを設定して取り組んできた。

本シンポジウムでは、創立30周年を迎える日本教育方法学会がこれまで明らかにしてきた学術的成果をふまえて、戦後の日本教育を支えた教育方法研究のあり方を総括し、今日の問題状況の解決と21世紀教育を展望しうる教育方法研究の新たな「枠組み」を求めようとするものである。

そのため、各提案者には、それぞれの専門の立場から、戦後教育方法研究の成果と到達点を総括していただき、そこから今日継承すべき戦後教育の遺産を再評価し、これからのお教育方法研究のあり方と21世紀教育へのパースペクティブについて論議できればと考えている。

# 日本教育方法学会刊行書籍

教育方法1.	教科内容・指導方法の現代化	1966	(品切れ)
教育方法2.	授業改造の基本問題	1968	(品切れ)
教育方法3.	授業の組織化と教師の指導性	1969	(品切れ)
教育方法4.	学力差と教授・学習過程	1970	(品切れ)
教育方法5.	教育方法学'70年代の課題	1972	(品切れ)
教育方法6.	授業研究の課題と方法	1974	(品切れ)
教育方法7.	現代学校教育論の再検討	1975	(品切れ)
教育方法8.	教育課程再編の原則	1976	(品切れ)
教育方法9.	現代訓育理論の探究	1977	(2,163円)
教育方法10.	学力の構造と教育評価のあり方	1979	(品切れ)
教育方法11.	現代授業理論の争点と教授学	1980	(2,472円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1982	(2,678円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1984	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,884円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1986	(2,266円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,472円)
教育方法17.	教育方法を問い合わせる	1988	(2,987円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,000円)
教育方法19.	知育・德育の構想と生活科の指導	1990	(1,760円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,760円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1992	(1,760円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,860円)

## 最新刊・教育方法23『新しい学力観と教育実践』

<内 容>

- I. 「新しい学力観」を問う
- II. 「教科」概念の検討
- III. 教育における「体験」概念の検討
- IV. 中等教育実践の課題と方向

\*巻末に『教育方法』バックナンバー（1～22巻）の目次概要を掲載しています。

『教育方法』は、大会当日、会場にて会員割引価格で販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

第18巻からは「会員配布制」となりましたので、学会費を納入された方には、明治図書より直接お手元まで郵送いたします。

〒170

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)0482-56-1175